

新庁舎建設に関する 市民ワークショップ

第1回の様子

今回のワークショップでは、熊谷市にお住まいの18歳以上の方19名が参加され、活発な意見交換が行われました。

4つのグループにわかれ、「熊谷市庁舎整備基本構想」を踏まえた新庁舎への導入機能について議論しました。最後には全体で議論した内容を共有し、ワークショップを終えました。

開催日	2025年8月3日(日)
会場	熊谷市役所
対象者	市内在住の18歳以上の方 19名
グループ	4グループ(各4～5名)



グループワークのテーマ

テーマ①:基本構想をベースとした各導入機能

- 基本構想で整理されている各導入機能について、具体的に利用したい機能はありますか？また、足りない視点や追加したい意見等がありますか？

テーマ②:ワークショップの目的や進め方

- 今年度実施するワークショップの目的に対して疑問や意見等がありますか？
- 今年度のワークショップの進め方に対して疑問や意見等がありますか？

■テーマ①補足 | 基本構想における基本方針と導入機能(案)

基本方針1「誰にでも利用しやすい便利な庁舎」		基本方針2「誰にでも優しい庁舎」	
導入機能(案):窓口機能、相談機能、待合スペース、窓口業務対応、駐車スペースの確保		導入機能(案):多様な人の利用を想定した環境整備、市民利用の促進、子育て世代への対応、サイン計画	
基本方針3「多様な人が集まり活力と魅力のある庁舎」		基本方針4「機能的で柔軟な庁舎」	
導入機能(案):来庁者が快適に過ごせる空間、情報発信機能		導入機能(案):働き方の変化に対応した執務スペース、健康な職場環境、ICT・AIの導入、会議室等の準備	
基本方針5「環境に配慮した庁舎」		基本方針6「安全・安心な庁舎」	
導入機能(案):ZEBの取組、自然エネルギーの活用、暑さ対策、省エネルギー		導入機能(案):建物構造、災害対策本部機能の整備、バックアップ機能の整備	

基本方針1「誰にでも利用しやすい便利な庁舎」

◆窓口機能

- フロアに壁を作らない様にして、シンプルなつくりにできるとよい。どこに何の窓口があるのか見渡すことができるし、直線的な動線になるのでわかりやすい。
- 職員派遣方式、総合窓口方式、ワンフロアストップ方式のいずれでも良いので導入してほしい。
- 職員派遣方式は移動が困難な人には良いと思った反面、職員の負担が大きいと思った。行政サービスへのアクセスが良いことと職員の負担が少ないことの両立ができるとうい。
- 用件に関わらず、ひとつの窓口で全て調べたり手続きができれば、市民は動き回らずに済むので、ワンフロアストップ方式ではない方がよい。
- 総合窓口に行かなくても、個人のスマホから用件に合った窓口と庁舎内の場所を探せたり、AIが案内してくれるシステムがあると、直接目的の窓口に行けるので時間の節約になる。窓口の混雑状況もわかると便利だ。
- マイナンバーカードの導入が進んでいるし、人がいる窓口に行かなくてもタブレット端末等で届け出や書類発行ができるようになるだろう。窓口の人員もスペースもこれまでよりも縮小できると思うので、それを検証した上で計画してほしい。
- 今後のIT化は必須だと思うが、アナログ世代への対応も考えて対面での対応も残し、ひとつの窓口で事が足りるようにしてほしい。将来的にアナログ世代がいなくなったら、さらにIT化を進めるのが良いのではないか。
- 運動公園の施設を借りるには、2つの部署に申請をしなくてはならないので不便を感じている。このような手続きが1カ所で済むようにしたり、来庁しなくてもできる手続きを増やして効率化を図ってほしい。

◆相談機能

- 窓口業務が縮小するとしたら、その分相談機能を充実させられないか。社会が複雑になって若い世代の悩みが多様化し、生活困窮者も増えてきていると思うので、市でも若い人達が相談できる場や方法を増やせるとよい。
- 相談スペースは防音にしてほしい。

基本方針1「誰にでも利用しやすい便利な庁舎」

◆ 駐車場

- 新庁舎の駐車場は立体駐車場になると思うが、ユニバーサルデザインの観点から、高齢者や子育て層、障害者は優先的に1階や低層部に駐車できるようにしてほしい。立体駐車場は通路の曲がり、一方通行、車サイズへの対応などの課題があるので十分な検討が必要だろう。立体駐車場への駐車が苦手な人もいるので、現庁舎に平面型の駐車場を作ってはどうか。新庁舎の駐車台数が減って立体ではなく平面にできる可能性も生まれるし、徒歩での移動を促して街を回遊することにもつながる。
- 新庁舎をコミュニティひろばに建てるとしたら駐車場のスペースが足りなくなるのではないか。県の施設の駐車場が優先的に確保されて市庁舎の駐車場が狭くなり、市民に不便をかけることがないようにしてほしい。
- 高齢者や障がい者などの歩行移動が大変な来庁者のために、玄関近くに乗降スペースを設けたり、駐車場から受付カウンターまでの移動の利便性を確保するなどの配慮をしてほしい。
- 車以外にも自転車、バイク、電動シルバーカーなどの交通手段があるので、それぞれに必要なスペース、台数などを検討し、多様な交通手段に応じた駐車駐輪スペースにしてほしい。
- 電気自動車の充電ステーションになる様に、駐車場整備にあわせてソーラーカーポートを導入してほしい。

◆ アクセス

- 新庁舎に機能が集約するならば交通アクセスは充実させたほうがよい。まちづくりとセットで考えて、バスなどの公共交通によるアクセス、EVバス、自動運転なども視野に入れてほしい。

ご意見

基本方針2「誰にでも優しい庁舎」

◆多様性

- 「多様な人の利用を想定した環境整備」とあるが、外国人対応のことが書かれていないのではないかと。熊谷市にも外国人労働者が増えて様々な国籍の人が暮らしているので、来庁した外国人が困ることがないように多言語対応できる窓口が必要だと思う。全ての言語に職員で対応するのは難しいと思うので、通訳ロボットや翻訳表示システムなどを設置できるとよい。
- ジェンダー多様性を踏まえて、おむつ替えスペースは男性も女性も使える様にしてほしい。

◆ユニバーサルデザイン

- 窓口カウンター、トイレ、エレベーターなどをユニバーサルデザインにして、エレベーターは数も増やしてほしい。
- 職員の障害のある市民への偏見や差別をなくすこと、いわば心のバリアフリーを進め、市民が訪れやすい窓口になるとよい。

◆サイン計画

- ピクトグラムなどを使用して、案内表示をシンプルでわかりやすいものにしてほしい。

基本方針3「多様な人が集まり活力と魅力のあふれる庁舎」

◆情報発信 熊谷らしさ

- 熊谷は暑いことで有名になったので、暑いがしっかり対策がされて涼しく過ごせる
凄いまちだと伝えられるように、庁舎のロビーや職務スペースの暑さ対策をし、そ
れが庁舎をお手本にしてまち全体に普及されるとよい。暑さ対策を目で見て、体
感してわかるようにPRしたい。熊谷地域の気象台の説明コーナーなどを設けては
どうか。
- 通年でうちわ祭りの山車を飾り、お囃子体験などができるコーナを設けたり、ス
ポーツ、文化、名産品などの映像を流せるとよい。星川通りも含めたまちづくり
につなげられると、まちへの誇りを持てる様になると思う。
- 新庁舎にすれば「熊谷市らしさ」「埼玉県らしさ」が市民や来街者にも伝わるように、
一般的な市役所の設えではなく、出入口に県産の木材をふんだんに使ったり、熊谷
うちわ祭の山車や屋台を設置できるとよい。
- これという有名なものはないが、活性化につながる種はあると思う。熊谷から見
える富士山、日光連山、浅間山などの山々や井戸水、とうろう流し、男女のラグビー
や女子サッカーなど、熊谷の良さに気づいてもらえる発信ができるとよい。イベ
ントスペースの様に空間を広くとらなくても、壁を使ったりすればできることでは
ないか。
- 県と市の施設が併設されるメリットを生かし、県の情報も身近に感じられる様に、
市と県の両方の情報が得られるインフォメーションコーナーを作り、県北のイベ
ントなどの情報提供ができるとよい。

基本方針3「多様な人が集まり活力と魅力のあふれる庁舎」

◆あると良い場や空間

- 市内の建物や山々などを見渡せるラウンジを上層階に設置し、景色や開放感を楽しんだり、静かに学習できるとよい。
- 庁舎が市内で一番高い建物になるように20階程度の高さにして展望台を設置することで、熊谷市のシンボルとなるとよい。若者や市民以外の人でも気軽に来られるように工夫したい。
- 日常的に来庁したくなるようにするために、民間も活用して、まちを回遊した人たちが立ち寄れるカフェや飲食店、地産地消の誰でも利用できる市民食堂、レンタルスペースなどができないか。物販や飲食で起業したい人が出店して軌道に乗ったら商店街へ紹介するなど、地元に貢献できる場にもなるとよい。
- 1階をオープンスペースにして、イベントや市民活動に利用できる場所になるとよい。現市庁舎にはそういう場所がない。
- 図書館は子どもから学生、高齢者までが生涯学べる居場所になるので、学習や会議のためのスペースも備えた図書館機能を入れてほしい。人がにぎやかに集まる場所に活気が生まれ、まちに活力が生まれて、地域への誇りが持てる様になると思う。
- 市民が会合やワークショップなどで利用できる会議室や学習室、学生のための学習や打合せスペース、キッズコーナーがあるとよい。例えば深谷市役所は夜まで開いていて学生も利用している様だった。ハード面だけでなく、ワークショップのコーディネーターとなる人材の確保も必要だと思う。
- 本来の市役所利用者以外の人でも訪れる場、交流が生まれる場になるとよい。
- 街なかにかにできる庁舎なので、夜の時間にも利用できるようにしてほしい。
- 建物内を禁煙にした場合は、喫煙で揉めない様に喫煙室を作ってほしい。
- 開かれた議会にするために、議場を庁舎の入口から近い立ち寄りやすい場所にしたり、ガラス張りやバリアフリーにして傍聴しやすくできるとよい。ロビーなどで議会の様子をライブ配信してはどうか。

◆周辺連携

- 「多様な人が集まり活力と魅力のあふれる庁舎」を実現するには、庁舎単体で考えるのではなく、周辺の公共施設と連携し、隣接する区画の建物や敷地と調和した庁舎にする必要があると思う。歩行者デッキへの接続が円滑にできるなど、回遊性を確保した計画にしてほしい。

基本方針4「機能的で柔軟な庁舎」

◆執務スペース

- 竣工予定の令和14年にはさらにデジタル化が進むだろう。その先、50年後の更新や建て替えのことも考え、来庁の目的や人数をイメージした上で整備する必要があると思う。
- 将来の変化を想定するのは難しいと思うので、壁をなくす、固定せずにパーティションで区切るなど、可変性があり必要に応じて柔軟な利用できる空間にできるとよい。オープンでシンプルな空間にすることで、部署間のコミュニケーションも良くなるのではないかな。

◆職場環境

- 働き方の変化に対応するのであれば、安心して働き続けられるように職員が優先的に利用できる保育所機能を設けられるとよい。

◆ICT・AIの導入

- 窓口職員の負担を減らすために、コンビニエンスストアにあるようなマルチコピー機を設置して、窓口でなくても必要な書類が入手できるようにしてはどうか。
- 現状の執務スペースには壁に書類が山積みになっているので、ペーパーレス化を進めてほしい。
- 行政のDX化を進めた東京都の宮坂副知事の実績が、熊谷市のDX化の参考になると思う。

ご意見

基本方針5「環境に配慮した庁舎」

◆省エネルギー 省資源化

- 庁舎や熊谷市の「本日のごみ排出量」「再エネ発電量」を来庁者などに見える様に表示し、ごみ対策などへの意識付けにつなげられるとよい。
- 省エネ等の検討に際しては、法で定められた調査検討が行われるのではないかと。それらのデータや検討のプロセスを共有し、市民生活などで自由に活用できるとよい。
- 暑さ対策になり、ごみ削減や市民の憩いにもつながるので、マイボトルでの給水もできる給水機を設置してほしい。給水機のデザインを市民から公募してはどうか。

◆緑化

- 人件費も含めて多くの管理コストがかかるので、庁舎の屋上などの緑化を行う際には将来的な管理まで考える必要がある。

基本方針6「安全・安心な庁舎」

◆防災

- 庁舎に全機能を集中すると災害時に混乱を招く可能性がある。県の施設と一緒にするのであればなおさらだ。安全、安心面で考えると分庁舎に機能を分散するという考え方もあると思うので、どちらが良いのかを検証してほしい。
- 災害が頻繁に起きるので、庁舎には防災機能として避難所的な機能、宿泊機能を設けられると良い。

ご意見

基本構想へ意見や質問

◆基本構想の位置付け

- 熊谷市中心市街地活性化計画との関連性を知りたい。

◆基本理念

- もっと市民に来てもらうようにするのか、ITの活用などによって来なくてもすむようにするのか、庁舎の役割に対する考え方を知りたい。役割をどう考えるかによって出す意見が変わると思う。

◆施設規模・整備エリア

- 庁舎をコミュニティひろばに建てることを前提としているが、今日の説明を聞いてもコミュニティひろばが最有力の整備候補地である理由がわからない。
- 20～30年後にはIT化が進んだり、人口が減ることによって、庁舎のスペースがあまり必要なくなるかもしれない。延床面積21,000㎡とあるが施設規模は事業費にも影響するので、将来を踏まえて算出する必要があると思う。
- 県施設と合同で作る際の、県と市の施設配置はどうなるのか。1つの建物で階を分ける、混合にする、県市で別々の棟にするなど考え方を知りたい。
- 新庁舎と周辺施設との機能の棲み分けをどのように考えているのか知りたい。例えば、(仮称)第1中央生涯活動センターにも学習スペースや会議室が計画されているが、関係性を踏まえているのか。
- 庁舎をコミュニティひろばに作るのであれば、現市役所の跡地はどの様に活用するのか知りたい。

◆事業費

- 建設にかかるコストは市民に関わる重要な問題だと思う。事業費を抑えたり補助金を活用するなどして、次世代に負担を残さないようにしてほしい。

◆整備手法

- 従来方式のデメリットに、「発注の都度契約を行うため、時間を要する」とあるが、設計、施工を一括発注すればデメリットは解消できると思う。他の整備手法のデメリットにも解決方法があるかもしれないので、十分検討した上で比較評価してほしい。

◆今後の進め方

- 莫大な事業費がかかる計画なのだから、最終決定に至るまでの計画評価のポイントとロードマップを示してほしい。

ご意見

基本計画の検討の進め方

◆意見反映

- 県の施設と一緒にすることで、市や市民の意向が反映されにくくなり、使いづらい庁舎になってしまうのではという懸念がある。県主導ではなく、ワークショップなどで出された市民の意見が反映されるように、県と十分に話し合いをしてほしい。ワークショップがアリバイ作りの場にならないようにしてほしい。

◆期待

- 新庁舎が県北地域のシンボルとなることを期待している。

本ワークショップの目的や進め方

◆提供情報

- 県庁舎と県の施設が同じ場所に建設されるのであれば、県の基本構想の内容も出してほしい。市役所として使用できる範囲などの情報も共有した上で、前向きに話し合いたい。
- 近年の進化がめざましいAIも活用して基本計画を検討し、市民意見と融合して考えていってはどうか。

◆参加者

- ワークショップの定員20名は熊谷市の人口を考えると少ないと思う。参加者層も年配者が多いので、もっと定員を増やし、若い世代の意見を聞く工夫をする必要があると思う。

◆開催時期

- 庁舎の完成までにはまだ時間がかかるのだから、暑い時期に急いでワークショップをやる必要はないのではないかと。もっと気候の良い時期に開催してほしい。